

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

23

2023 MARCH

奈良らしい
景観を目指して



取り木で小さな根を出したミツバツツジ



枯損木をチェーンソーで伐採する様子

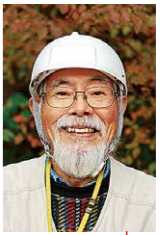
休憩後は、いよいよ枯損木の伐採で

木の伐採はチームワークで！

り、南天の実には森に住む鳥や昆虫の食料。草刈りや伐採には、四季の景観と生態系を壊さない配慮が必要です」と語ってくれました。



下草刈りや伐採など、力仕事に励む「いこま宝の里」の皆さん



環境リーダー
山田 武さん



会長
磯貝 猛さん



真弓どんぐり公園
サブリーダー
増田 照男さん



真弓どんぐり公園
リーダー
藤原 良造さん

グリーンボランティア「いこま宝の里」 (生駒市)

樹林は町の誇り。未来につながる自然保護活動

「町中の自然環境を守りたい」と有志が集まって設立したグリーンボランティア「いこま宝の里」。手入れが行き届かず、荒れていた公園や里山を地道な整備活動と抜群のチームワークで美しい景観によみがえらせています。

景観と生態系を守るために

生駒市北部にある「真弓どんぐり公園」には、豊かな木々と多様な生物が生息する美しい樹林があります。この場所を維持・管理をしているのが、グリーンボランティア「いこま宝の里」の皆さんです。ある秋の活動日、公園には作業服を着た10名の会員が集まっています。この日の活動は、小径木の間伐と2本の枯損木の伐採。敷地は約1.2ヘクタールと広いいため、当日の活動場所は地図で確認します。全体の指示を行うのは会長の磯貝さん。作業場所を提示し、「安全第一で！」と呼びかけると、草刈り機を使う班と、鎌を使う班の二手に分かれて活動開始です。

鎌を使う班の作業場所は、高く伸びた笹や葛などの草木が生い茂る山肌。皆さん、鎌を巧みに使って硬い笹や下草を次々と刈り取ります。森林インストラクターである会員の橋木さんは「これで、小さな植物にも陽が届きます」とにっこり。一方、山の中腹で作業をする草刈り機を使う班は、機械を左右に振りながら、丁寧に刈り取ります。1時間ほどの作業で、樹林には柔らかな陽が差し込み、すっきりとした景色になりました。

「全部刈り取っているわけではありませんよ」と話すのは、会の初期メンバーである山田さん。「花は景観を彩り、椎茸を栽培するなど、自然の再生にも積極的です。山田さんは「伐採も、植樹も、自然再生のため。私たち人間にもできることはたくさんあります」とツツジの新根を優しく見つめます。

「緑を守りたい」という願いが原動力となり、活動を続ける同会の皆さん。目標は、「継続すること」だと口をそろえます。磯貝さんは「一度失った自然は、取り戻すことができません。メンバーや他の団体とも協力をし、美しい景観を未来に残したいです」と使命感を抱いています。作業を終えた樹林には、爽やかな草の香りと、清々しい会員の姿。皆さんの思いに込めるように、木々にはたくさんのお新芽が芽吹き、町の景観を支えています。

す。しかし、枯損木が斜面に生えていることから倒木する方向について、会員の意見が分かれます。磯貝さんを中心に話し合い、安全に、確実に倒木するために、木にロープを結び、倒れる角度や方向を調整する方法がとられることになりました。磯貝さんがチェーンソーで「受け口」を作り、掛け声とともに、皆で力を合わせてロープをひきます。木はメキメキと音をたてながら、想定した場所に無事倒れました。「伐倒方向が変わることもあるので、安全な方法を皆で話し合い、意識を統一しています」と話すのは真弓どんぐり公園班のリーダーである藤原さん。伐採には知識や技量とともに、チームワークも欠かせない要素なのです。

継続が実を結ぶ自然保護活動

同会の発足は、平成21年4月。磯貝さんが生駒市と協働で、里山整備について学べる「里山ボランティア講座」

同公園での活動は平成24年4月から開始。「まるでジャングルのように」と皆さんが評するほど荒れていた樹林を4年計画で整備。努力が実り、今では地域で愛される景観が復活しました。その後も、月に一度のペースで整備活動を続けています。これらの取組が評価され、同会は「令和元年度きれいな奈良県づくり功労賞 景観づくり部門」を受賞しました。現在の登録会員は、27名。20〜70代まで幅広い年代が参加しています。班のサブリーダー増田さんは「自然が好きな人、地域活動をしたい人と目的は様々。みんなと活動するのが日々の活力！」とにこやかです。

未来のために自然の再生へ

活動の最後は、樹林の奥へ。ここでは、試験的にミツバツツジの取り木*を行ない、新しい根を発根させています。ほかにも、ヤマザクラの苗木を植樹した



*取り木：枝や茎の一部を人為的に傷付け、発根させる繁殖方法です。



代表
松山恵美子さん



事務局長
吉見 敬さん

F A 奈良

(奈良市)



大洲池公園の花壇に春花の苗や球根を植栽

公園花壇に 季節の花たち

四季折々の自然美が楽しめる大洲池公園（奈良市）。駐車場から公園へと通じる遊歩道には、季節の草花で彩られた花壇があり、一年を通して行き交う人々の心を和ませてくれます。この花壇の整備をしているのが、F A 奈良の皆さんです。

うろこ雲が広がる秋空の下、「いいお天気やね！」とおしゃべりしながら、7名のメンバーが続々と集まってきました。この日はパンジーの苗や来春に咲くチューリップの球根などを植え付ける活動日。落葉の掃き掃除、作業道具の準備と、各自できばきと作業をしていると、花屋さんに注文していた球根とポット苗が届きました。「苗が到着したから作業を始めましょう！」と事務局長・吉見さんの呼びかけとともに、植え付け作業が始まります。

花壇内は、役目を終えた夏の花がきれいに刈り取られ、土もしっかりと耕されています。こんもりと盛られた土の山に赤、白、黄色、ピンクと各色のチューリップの球根が植えられ、花壇両サイドに純白のストックの苗。あらかじめ考えられていたデザインに合わせ、順番に配置していきます。ほかにも、春に爽やかな青い花を咲かせるネモフィラの種をまき、黄色や紫のパ

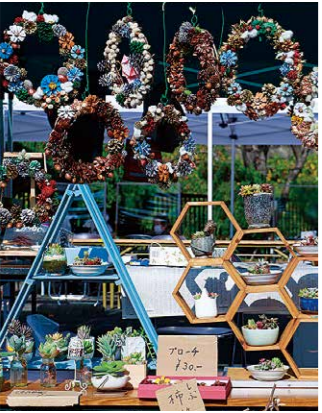
行き交う人の心も鮮やかに。 花も、笑顔も、満開の花壇づくり

植物が好きな仲間と一緒に「花と緑いっぱいの町づくり」を目指して、奈良市内の各地で植栽活動を行うFA（フラワーアドバイザー）奈良の皆さん。講座や派遣事業などを通して、知識や技術力の向上にも努めています。

評判の取組です。

また、講座で使う素材の調達も実にユニーク。苔玉で使用する苔は山や川にあるものを、クリスマスリースのどんぐりやナンキンハゼは公園や山で拾ったものを、藤蔓は公民館の藤棚剪定ボランティアで切り取った蔓を：と、すべて身の回りにある自然の恵みを活用しています。こうして作られた作品は、年に一度秋に開催される「奈良市ボランティアフェスティバル」で販売。そこで得た収益は、活動費に充てられています。

設立より約30年。メンバーの高齢化や、会員数の伸び悩みといった課題はありますが、講座やイベントを通じて、新しい人との出会いや繋がりはどんどん広がっています。そんな皆さんの願いは、町中をきれいなお花でいっぱいにすることです。「たくさんの人を笑顔にしてね」と愛おしそうに苗を植える同会の皆さん。そのまなざしは、春の花のように優しく輝いています。



講座で作った作品はイベントに出展



講習会の講師を務める会員の皆さん

ンジーとピオラも植栽。最後に、たっぷりの水をあげていきます。「公園に遊びに来た人たちが『珍しいお花ですね』『きれいですね』と声をかけてくれるのが嬉しいです」と話すのは、代

表の松山さん。公園を訪れた人たちと、会のメンバーを交えた「お花談義」も活動の楽しみです。

仲間同士の交流が 活動の励み

同会が発足したのは、平成6年。当時、奈良県フラワーセンターで花木の研修を受講して知り合った有志が中心となり、植栽活動を行うボランティアの会を設立しました。主な活動は、花木の植栽、剪定、草刈りで、公園での活動日は、第1・3水曜日。会員数人が集まって、雑草の間引き、水やり、清掃を行います。「どんな花を植えたらみんなが喜んでくれるかな」と観る人の笑顔を想像して花を選んでいきます」と話すのは、大洲池公園班のリーダー・神田さん。活動に参加して23年目。現在は同公園の花壇のデザイン、植栽する花の選定を担当しています。

同会の活動場所は幅広く、奈良市ポ

花の講座が 会員のレベルアップに

ランティアセンターにある花壇をはじめ、奈良市役所の依頼で市内各地の公園へ整備に行くこともあるのだそう。松山さんは「F A 奈良のメンバーは、皆植物が好きという気持ちでつながっているので、チームワークもよく和気あいあいとしています。」と目を輝かせます。「お日様を浴びて、みんなと交流して、自然に親しむ。これほど健康にいい仕事はありませんよ」と吉見さんにもこやかです。

同会の特徴的な活動のひとつが、月に一度、会員向けに開催される講座です。会の定例会（第2土曜）の後に開催される取り組みで、苔玉づくり、季節の花の寄せ植え、クリスマスリース製作と、花や植物に関する内容が中心。講師は、会員が交代で務め、「教わった人は、いずれ講師に…」というゆるやかな決まりです。今では、市内の公民館や各団体から、寄せ植え教室などの講師依頼があり、内容に応じて会員を派遣しています。「お花の知識が身に付く」「教わった人が、次は教える人になるのが良い経験」と会員内でも





和気あいあいとした雰囲気チームの魅力



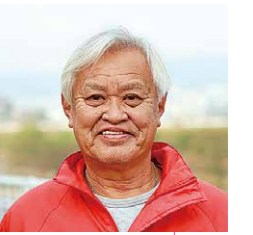
枯れ葉等が溜まった溝の清掃は力仕事



四季の移ろいを感じる「泉台花壇公園」で美しい景観づくりに励む皆さん

泉台自治会花壇チーム

(北葛城郡河合町)



会長
山下聡一郎さん



高畑 豊さん

「花壇公園」は地域の宝。活動を通じて人の輪を広げて

自治会活動の一環として、「泉台花壇公園」の植栽や整備活動に取り組む「泉台自治会花壇チーム」の皆さん。地域の中心である公園を「地域の宝」と誇り、50年以上にわたって美しい景観づくりに努めています。

景観保全に欠かせない
清掃活動

奈良県西部にある河合町。町を流れる大和川に沿って、東西に長い「泉台花壇公園」があります。公園周辺にはサツキや桜が植樹され、園内の花壇には四季の花々。川沿いを散策する人が見とれるほど美しい景観が広がっています。この公園の整備を担っているのが「泉台自治会花壇チーム」の皆さんです。活動は毎月2回(第2・4日曜)。花壇づくり、草刈り、清掃と定期的な作業をしています。

ある冬の活動日、公園には道具を手を持った方々が集まってきました。この日の活動は、パンジーが植えられた花壇の手入れと清掃です。公園は総面積約1,000㎡と広いいため、区域を6班に分配。それぞれ6名の班長が当日の活動を指示し、集まった25名のメンバーは、草刈りをする人、ゴミを回収する人、大きなスコップで溝の落ち葉を掻き出す人と、手際よく作業を進めます。「草刈りが終わったから、水やりするわ」とお互いに声を掛け合い、和やかな雰囲気です。

「夏は雑草が生い茂り、冬は大量の枯れ葉に悩まされますが、きれいな景観を保つためには定期的な清掃が一番大切なんです」と会長の山下さん。1時間ほどの作業を終えた皆さんは、き

れいになった公園を見渡して「爽快やなあ!」と充実した表情です。

美しい公園を
目指して50年

「昔は、ひどい荒地地だったんですよ」と話すのは、長年活動に従事してきた高畑さん。昭和40年代に泉台の住宅地が拓かれたとき、花壇公園の場所は空き地だったそうです。「投棄ゴミがあふれ、雑草が生い茂り、景観も環境もひどい状態でした」と高畑さんは振り返ります。この状況を改善しようと、有志が立ち上がり、河合町と協力して清掃や植栽に奮闘。花壇をしつらえ、桜を植樹し、今につながる美しい公園へと生まれ変わりました。平成17年4月、公園の整備を自治会内の活動とするため、「泉台自治会花壇チーム」を新設。発足当初から50年にわたり、活動は続いています。また同会では、より充実した活動と

たくさんの方が
楽しめる公園に

現在の会員数は38名で、メンバーのほとんどは元会社員。「花壇づくりは、素人ばかりです」と山下さんは笑います。しかし、苗を種から発芽させたり、花壇やベンチを手作りしたりと、今ではプロ顔負けの技術を持ち合わせるメンバーが増えてきました。こうした長きにわたる活動が実を結び、令和3年に環境省より「地域環境美化功績者表彰」を、令和4年に「第33回『みどりの愛護』のつどい記念奈良県都市緑化功労者知事表彰」と、同会は立て続けに大きな賞を受賞しました。「この公園は地域の宝です」とメンバーの岡田さんは嬉しそうです。

町



みんなで取り組む！「なら四季彩の庭」づくり



地域の庭づくりをサポート！なら四季彩の庭づくりアドバイザー制度

景観デザイン、造園、植物の育成・管理等について、実務的・専門的知識を有する方々を「なら四季彩の庭づくりアドバイザー」として派遣します。

対象となる事例

植栽等による魅力ある地域づくりを目的として開催する講習会や勉強会等

派遣対象者(申請者)

自治会・学校・事業者・地域グループ等、地方公共団体
申請方法等詳細については下記HPをご覧ください

なら四季彩の庭

Q 検索



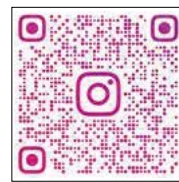
専用ホームページ



「なら四季彩の庭」Instagram

「なら四季彩の庭」公式Instagramでは、奈良県内の四季の彩りや、花や緑による取り組みをご紹介します。

ぜひ、皆さまも『#なら四季彩の庭』で発信してください。
一緒に「庭づくり」を楽しみましょう。



アカウント名
nara_shiki_irodori



令和4年度きれいな奈良県づくり功労賞受賞者が決定！



「きれいに暮らす奈良県スタイル」行動計画に基づく各主体の実践活動を促進し、全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、行動計画の推進に貢献している団体等に対して「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会会長(奈良県知事)から令和5年1月30日に表彰されました。

川のきれい化部門 (1団体)

富雄川環境美花推進協議会
生駒市上町自治会長 西本 和興



毎年6月と11月に富雄川クリーンキャンペーンとして遊歩道の清掃と植栽を実施している。植栽後は上町自治会を中心に、草刈りや水やり等の花壇の維持管理を行い、年間を通じて富雄川の景観向上と水辺環境の整備に貢献している。

景観づくり部門 (2団体)

奈良市手をつなぐ親の会
会長 小西 英玄



大宮通り沿いにおいて「クリーン作戦」と名付けた月1回2時間の除草を中心とした清掃活動を行っている。親の会は知的障がい者児の当事者団体であり、奈良市から美化促進清掃事業を受託している子供たちの活動をサポートするため、ボランティアで清掃活動を行い、大宮通りの景観の向上に貢献している。

榛見が丘自治会
会長 大東 由明



宇陀市榛見が丘において、年2回の大掃除で3つの公園や主要道路の草刈り・ごみ拾いを行っているほか、花の栽培を積極的に行うことを目的に「生粋クラブ」を立ち上げ、花壇の整備や花の植え替え、草刈りや剪定など、年間を通じて地域の美化に貢献している。